礼拝説教（2026 年 10 月 4 日）

説教者：中村信哉

多くの実を結ぶ人

ヨハネの福音書 15 章 1-6 節

はじめに

ヨハネの福音書 15 章は、イエス様が十字架で死なれる前夜の「最後の晩餐」の時に、弟子たちに語られた言葉が書かれています。

1. わたしはまことのぶどうの木です

1 節でイエス様は、こう言われます。**「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です」**。旧約聖書においては、「ぶどうの木」というのは、「イスラエルの民」を象徴するものでした。例えば、詩篇 80：8 にはこうあります。**「あなたは、エジプトからぶどうの木を引き抜き、異邦の民を追い出して、それを植えられました」**。「エジプトから引き抜かれ、異邦の民の地に植えられた」存在というのは、まさにイスラエルの民のことです。イスラエルの民は、「ぶどうの木」として、神様から、良いぶどうの実を結ぶことが期待されていたのです。イスラエルの民にとって、良いぶどうの実を結ぶというのは、神様に従い、地のすべての国々に神様の祝福をもたらす存在となることでした。神様はかつて、アブラハムにこう言われました。**「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである」（創世記 22:18）**。しかし、実際のイスラエルの民は、神様に従わず、地のすべての国々に神様の祝福をもたらす存在とはならなかったのです。エレミヤ２：21 に、**「わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか」**とある通り、イスラエルの民は良いぶどうの実ではなく、質の悪いぶどうの実を結ぶ存在となってしまったのです。

新約聖書に目を向けると、イエス様はある時、「ぶどう園」の譬え話をされました。ある人がぶどう園を造って、農夫たちに貸して旅に出るのです。収穫の時期になって、農夫たちの所に多くのしもべを遣わして、収穫の実を得ようとしますが、農夫たちは、しもべたちを次々と殺してしまうのです。そこで主人は、愛する息子を最後に遣わしますが、息子までも殺されてしまうのです。ついに主人は、農夫たちからぶどう園を取り上げ、ほかの人たちに与えてしまうという譬え話です。これは、「ぶどうの木」であるイスラエルの民のことを指して語られたものです（マルコ 12：1-12）。イスラエル民は、神様に従わず、地のすべての国々に神様の祝福をもたらす存在とならなかったため、神様は多くの預言者たちを遣わし、彼らに悔い改めを求めました。しかし、イスラエルの民は次々と遣わされた預言者を殺し、最終的には神様の愛するひとり子イエス様までも十字架につけて殺してしまうのです。神様はその結果、イスラエルの民からぶどう園を取り上げ、イエス様を信じる「キリストの

教会」にぶどう園を与えられるのです。教会こそ、新しい「ぶどうの木」であり、教会こそ、神様に従い、地のすべての国々に神様の祝福をもたらす存在となることが期待されているのです。

2. あなたがたは枝です

イエス様は、4-6 節でこう言われます。**「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます」**。

イエス様は、「まことのぶどうの木」であり、イエス様を信じる私たちは「枝」です。枝だけでは、実を結ぶことはできません。枝は、「ぶどうの木」にしっかりと繋がっていなければ、決して実を結ぶことができません。実を結ぶことができないどころか、枯れてしまい、火に投げ込まれて、燃えてしまうのです。枝は、「まことのぶどうの木」に繋がっている時に初めて、実を結ぶことができ、自らもまた「ぶどうの木」の一部分とされるのです。私たちは、イエス様に繋がっている時、自らもまた「ぶどうの木」の一部分となり、多くの実を結び、しかも良いぶどうの実を結ぶことができるのです。

教会は、イエス様と繋がっている時、自らもまた「ぶどうの木」の一部分となります。しかし私たち一人ひとりは、「ぶどうの木」に繋がるだけでなく、「まことのぶどうの木」にしっかりと繋がらなければなりません。イスラエルの民は「ぶどうの木」でしたが、良い実を結ぶことができませんでした。教会もまた「ぶどうの木」ですが、必ずしも良い実を結ぶとは限りません。教会は、多くの過ちも犯すからです。イエス様は、「わたしにとどまりなさい」と言われます。大切なのは、私たち一人ひとりが「ぶどうの木」である教会に繋がるだけでなく、「まことのぶどうの木」であるイエス様にしっかりと繋がるということです。教会に繋がるだけでは、私たちは良い実を結ぶことも、多くの実を結ぶこともできません。しっかりとイエス様に繋がる時、私たちは良い実を結び、多くの実を結ぶことができるのです。

私たち人間は、枝のような存在です。自分の内には命がありません。命を得るためには、イエス様に繋がる必要があるのです。もしイエス様に繋がらなければ、枯れ果てて、火に投げ捨てられてしまうのです。私たち人間には、イエス様に繋がって、多くの良い実を結ぶ人生を生きるか、それとも、イエス様に繋がらず、枯れ果てて、火に投げ捨てられるか、どちらかしかないのです。

3. イエスにとどまるとは

では、イエス様に繋がる、あるいはイエス様にとどまるとは、具体的にどういうことでし

ょうか。イエス様は、16：7でこう言われます。**「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら」**。イエス様はここで、イエス様にとどまるとは、イエス様のことばにとどまることだと教えています。私たちは、イエス様のことばにとどまる時、多くの良い実を結ぶことができるのです。

さらにイエス様は、ヨハネ6：56でこう言われます。**「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります」**。私たちは、イエス様の肉を食べ、イエス様の血を飲む時に、イエス様にとどまります。イエス様の肉を食べ、イエス様の血を飲むというのは、聖餐式に与ることです。私たちは、聖餐式に与る時に、多くの良い実を結ぶことができるのです。聖餐式は、パンとぶどう酒に与ります。私たちは、「まことのぶどうの木」であるイエス様から、ぶどう酒を与えられる時、私たちもまた「ぶどうの木」となって、多くの良い実を結ぶことができるのです。

私たちが多くの良い実を結ぶためには、イエス様にとどまらなければなりません。イエス様にとどまるとは、イエス様のことばにとどまることであり、イエス様の肉を食べ、イエス様の血を飲むことです。つまり聖餐式に与ることです。しかし2節には、私たちが多くの良い実を結ぶために必要な、もう一つのことが書かれています。**「わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多くの実を結ぶように、刈り込みをなさいます」**。父なる神様は、「農夫」です。農夫は、実を結ばない枝を取り除き、実を結ぶ枝が、もっと多くの実を結ぶために、刈り込みをするのです。刈り込みは、余計なものを取り除くことです。もっと栄養が実に集中するように、余計なものを取り除くのです。父なる神様は、私たちがもっと多くの良い実を結ぶために、私たちから余計なものを取り除かれるのです。そのために父なる神様は、私たちに試練を与えることもあるでしょう。試練を通して、私たちを訓練し、私たちから余計なものを取り除くこともあるでしょう。しかしそれはあくまでも、私たちがもっと多くの良い実を結ぶための、神様の刈り込みなのです。

<u>おわりに</u>

教会は、新しい「ぶどうの木」として、多くの良い実を結ぶことが、イエス様から期待されています。教会にとっての多くの良い実とは、神様に従い、地のすべての国々に神様の祝福をもたらすことです。私たちは、そのために「まことのぶどうの木」であるイエス様に、一人ひとりが繋がらなければなりません。教会に繋がるだけでなく、イエス様ご自身に一人ひとりがしっかりと繋がらなければなりません。

では、私たちはどうやってイエス様に繋がるのでしょうか。それは、イエス様のことばを通して、イエス様に繋がるのです。さらに私たちは、聖餐式に与ることによって、イエス様に繋がるのです。イエス様のぶどう酒に与る時、私たちは良いぶどうの実を結ぶことができるのです。私たちは、自分たちの力では決して実を結ぶことはできないのです。イエス様から離れていたら、何もすることができないのです。私たちはとにかく、イエス様に繋がることに集中する。一人ひとりがイエス様にしっかりと繋がる、そうすれば、必ず私たちは多く

の良い実を結ぶことができるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、あなたを離れて実を結ぶことはできません。自分の力では決して実を結ぶことはできません。どうかあなたに繋がることに集中させてください。一人ひとりをしっかりとイエス様に繋がらせてください。どうかあなたの命と力が、私たちから溢れ出て、多くの良い実を結ぶことができますように。この教会が、あなたに従い、地のすべての国々にあなたの祝福をもたらす存在となることができますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。